

2022年度 自己点検・評価チェックシート 学部・研究科名：スポーツ科学研究科

※学部・研究科ごとに作成してください。

確認事項1 3つのポリシー		
(1) 3つのポリシーを教授会・運営委員会等で確認した	☒ 確認した	2020 年 11 月 会議名：スポ科院教授会
	☐ 確認していない	年 月 確認予定
(2) 3つのポリシーは学生や社会に公表されている	☒ 公表されている	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 公表されていない	公表予定時期：

確認事項2 学修成果		
(1) 学修成果を設定している	☒ 設定している	⇒(2)、(3)を記入
	☐ 設定していない	年 月 設定予定
(2) 学修成果の内容	☒ 各学部・研究科の DP と関連付けて設定している ☒ 複数の方法で根拠に基づいて測定することが可能である ☒ 知識、スキル、態度・志向性をバランスよく含んでいる ☒ 「学生は、～することができる」といった形式にするなどわかりやすい記述となっている	
(3) 学修成果を明示している	☒ 明示している	☒ 要項 ☐ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 明示していない	年 月 明示予定
◆明示している学修成果（昨年度報告している箇所もご記入ください。ホームページ等のリンクではなく、学修成果をご記入ください。） ① リテラシー 外国語の実践的な総合力としての高度な「言語力」を身につけ、情報・データ等の収集・分析・表現能力としての高度な「データ・リテラシー」を身につけている。 ② 専門性 科学的・論理的な思考力と専門知識や方法論を身につけている。 ③ 学際性 多様な専門性を横断する学際的（インターディシプリナリー）な視点から研究対象をとらえることができる。 ④ 国際性 一元的な思想や価値観にとらわれない国際的（インターナショナル）な視点から研究対象をとらえることができる。		

⑤ 独創性

進取の精神をもって伝統の殻を破る新しい概念を構築し、発展させる力を身につけている・進取の精神をもって伝統の殻を破る新しい概念を構築する力を身につけている。

確認事項 3 学修成果の測定方法の設定

(1) アセスメント・ポリシーを設定している	☐ 設定している	⇒確認事項(2)、(3)を記入
	☒ 設定していない	2022 年 11 月 設定予定
(2) アセスメント・ポリシーの内容	☐ 学修成果と測定方法の関連性が明確になっている ☐ 学修成果を複数の方法（可能な限り「直接評価」と「間接評価」の組み合わせ）で測定する ☐ 測定時期を明確にしている ☐ どの水準をもって達成とするか学部・研究科内で合意している	
(3) アセスメント・ポリシーを明示している	☐ 明示している	☐ 要項 ☐ HP ☐ パンフレット ☐ その他（ ）
	☐ 明示していない	年 月 明示予定
◆明示しているアセスメント・ポリシー（別紙での提出も可）		

< 3つのポリシー・カリキュラム・入試制度の変更 >

※2021 年 10 月以降に変更を決定した項目があれば記載してください。本チェックシートの別項目で記載している場合は不要です。

項目	変更時期	変更内容	変更理由

※以下は該当する学部・研究科のみ記載

確認事項 3-7 2020 年度認証評価における指摘事項へ対応⑦ 指摘事項： 学生の受け入れ方針を学位課程ごとに設定していないため、これを定め公表するよう是正されたい。		
該当箇所： 政治学研究科博士後期課程、経済学研究科、法学研究科、基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科、環境・エネルギー研究科、社会科学研究科、スポーツ科学研究科		
(1) 指摘事項への対応を行った	☒ 前回報告で対応完了済	(2) を記入
	☐ 前回報告以降に対応もしくは修正	年 月 会議名： ⇒(2)(3)を記入
	☐ 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の学生の受け入れ方針を公表している	☒ 公表されている	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他()
	☐ 公表されていない	公表予定時期：
(3) 変更後の内容 早稲田大学では、『学問の独立』の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的 好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ 世界から多数迎え入れている。 本研究科では、スポーツ科学に期待される社会的要請の高まりに対応し、スポーツ関連の幅広い事業分野で専門職として活躍し、スポーツ科学の発展に大いに貢献でき、多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み、地域社会に主体的に貢献する意欲と可能性のある人材を受け入れる。 修士課程 2 年制では、学術研究者および高度職業人を育成するために、スポーツ文化、スポーツビジネス、スポーツ医科学、身体運動科学、コーチング科学、Health and Exercise Science、Sport Management の 7 つの研究領域において、スポーツ関連の幅広い事業分野で活躍できる人材を求める。 また、実務経験者を対象とする修士課程 1 年制では、トップスポーツマネジメント、スポーツ クラブマネジメント、健康スポーツマネジメント、介護予防マネジメント、エリートコーチング、 スポーツジャーナリズムの 6 つのコースにおいて、それぞれの分野で活躍できる人材を求める。 博士後期課程では、スポーツ科学に関わる豊かな学識を有し、高度な研究能力を備えたスポーツ科学の研究者となり得る人材を求める		

確認事項 3-9 2020 年度認証評価における指摘事項へ対応⑨ 指摘事項： 研究指導計画として研究指導の方法及びスケジュールを定めていないため、これを定めあらかじめ学生に明示するよう是正されたい。		
該当箇所： 商学研究科修士課程、商学研究科博士後期課程、基幹理工学研究科修士課程、基幹理工学研究科博士後期課程、創造理工学研究科修士課程、創造理工学研究科博士後期課程、先進理工学研究科修士課程、先進理工学研究科博士後期課程、環境・エネルギー研究科修士課程、環境・エネルギー研究科博士後期課程、人間科学研究科修士課程、人間科学研究科博士後期課程、スポーツ科学研究科修士課程及びスポーツ科学研究科博士後期課程		
(1) 指摘事項への対応を行った	☐ 前回報告で対応完了済	(2) を記入
	☒ 前回報告以降に対応もしくは修正	2021 年 12 月 会議名：スポーツ科学学術院教授会 ⇒(2)を記入 ※変更後の内容を別途ご提出ください
	☐ 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の研究指導計画を公表している	☐ 公表されている	☒ 要項 ☒ HP ☐ バンフレット ☐ その他() 要項 p 2 2 ～ 2 7 : 50kenkyukayoukou2022.pdf (waseda.jp)
	☐ 公表されていない	公表予定時期：

※確認事項 3-1、3-2、3-3、3-4、3-5、3-6、3-8、3-10 は該当なし